

第 6 期 事 業 報 告

1. 事業の概況

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構は、財団法人日本バレーボール協会(以下、JVAと略す)から独立・法人化して今期で6年目を迎えました。

当事業年度は、理事全員が改選期に当たることから平成22年9月に開催した第5回定時社員総会において、理事10名(再任4名、新任6名)を選任し、又 監事1名の辞任に伴う補充として1名を選任しました。そして、この定時社員総会后に開催した理事会において、木村憲治理事を代表理事会長、井原実理事を副会長に選出し、新執行部体制をスタートさせました。

平成23年12月に開幕する2011/12シーズンが、男女ともロンドンオリンピックの出場権獲得を目指した仕上げの年ということ考えると、当事業年度の2010/11シーズンは、強化に向けて非常に重要なシーズンであり、選手にとっては代表入りに向けて実力をアップし結果でアピールするシーズンとなります。そこで、このシーズンのキャッチコピーに『熱競宣言＝全力応援×全力プレー』を掲げ、競技力の強化を使命とするトップリーグの原点に戻って、熱競することを宣言して大会を推進することとしました。

プレミアリーグの女子大会は平成22年11月27日、男子大会は12月4日に開幕、チャレンジリーグの女子大会は11月27日、男子大会は平成23年1月8日に開幕しました。以後順調にリーグ日程を消化しレギュラーラウンドも最終盤に差し掛かった平成23年3月11日に東日本大震災が発生したため両リーグとも翌日以降の全ての大会を打ち切りました。打ち切り時点(3月6日の大会終了時点)での成績をもってリーグ日程を終了とするという日本リーグの時代から数えて45年近いVリーグの歴史始まって以来かつてない異常な結末となりました。又、4月2日、3日並びに4月24日に開催を予定していたチャレンジマッチ並びに日韓V・LEAGUE TOP MATCHもこの大震災の発生により開催を中止しました。

以下、個別事業の活動概況を、メイン事業のプレミアリーグ、チャレンジリーグを中心に詳述します。

(1)V・プレミアリーグ

2010/11シーズンは、女子が8チーム制となって2シーズン目で、男子・女子大会とも8チームによる4回戦総当たりリーグ戦のレギュラーラウンドとセミファイナルリーグ戦、優勝決定戦・3位決定戦のファイナルラウンドの競技形式で、レギュラーラウンド112試合、ファイナルラウンド8試合、計120試合、男女計240試合を、延べ73会場(女子36会場、男子37会場)で開催する計画でありました。

オリンピックの中間年に開催される国際大会「FIVB 世界選手権 2010 女子大会」の終了を待って、女子大会は11月27日、男子大会は12月4日に開幕し、途中でJVA主催の天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会(ファイナル:12月16日～23日)を間に挟んで、平成23年4月9日、10日のファイナルまで4ヶ月半に及ぶ大会を開催してきましたが、冒頭に述べたとおり、レギュラーラウンドも終盤戦に差し掛かった平成23年3月11日(金)に「東日本大震災」が発生したため、翌12日以降開催予定の全試合を中止し、3月6日迄の試合(男子96試合、女子104試合)をもってシーズン日程を終了し、その時点の成績で順位を決定しました。

女子の4強は決定し、男子の4強争いもほぼ目鼻がついてきたところでの終了により、以後に予定していたレギュラーラウンドの終盤戦とセミファイナルリーグ戦、優勝決定戦・3位決定戦のファイナルラウンドが中止となり、いよいよ決戦はこれからと満を持していた各チームや選手はもちろんのこと、楽しみにしていた

ファンや大会の開催準備に万全を期していた開催地バレーボール協会の関係者等に、落胆と無念な思いが強く残る大会となりました。

そうしたシーズンではありましたが、当機構が目指すものとして掲げたビジョン、「ファン重視」「地域密着」「常に発展」に沿った諸施策や社会貢献活動を推進しました。

主なものとしては、次のとおりです。

① 大会キャッチコピー

毎年一般から公募して決めているVリーグのキャッチコピーについて、2010/11 シーズンは、『熱競宣言＝全力応援×全力プレー』を掲げ、競技力の強化を使命とするトップリーグの原点に戻って、熱競することを宣言して大会を推進してきました。

② 大会広報活動

年々減少傾向にある観客入場者数に対する対策として、2010年8月から事務局に加わった元全日本選手・オリンピック選手大山加奈による「開催地プロモーション活動支援事業」と、フリーペーパー”Spopre”を活用した「大会告知 PR 事業」を積極的に推進しました。

③ 普及とファンサービス

(I) 北から南まで全国延べ 63 会場での開催(当初計画では 73 会場での開催)

(II) キッズエスコートの全会場での実施

(III) 開場後からプロコール前後のイベントマニュアルの見直しと充実

(IV) エントランスアーチなど会場内外演出の見直しと充実

(V) サイン入りミニボールの投げ込み

④ ホームページ等によりファンサービスの充実と盛り上げ

(I) ホームページの有料化スタート、情報発信の迅速化、画像情報強化など実施

(II) ホームページの充実したコンテンツと迅速な情報発信

(III) JVIS スーパーバイザー制度による判定員の意識向上とレベルアップ

⑤ ホームゲームの充実

(I) ホームゲーム小委員会の答申を受けて、計画的な運営(ホームゲーム計画書の提出の義務化)とイベント充実の促進

(II) 各チームでの取り組みの充実

(III) 女子レギュラーラウンド全 104 試合中 42 試合、男子全 96 試合中 38 試合でホームゲーム実施

⑥ 骨髄バンク支援活動の継続

(I) 大会会場における啓発活動(全会場でリーフレットを配布)

(II) 複数会場内にてスーパーバンドによる Vリーグテーマソングなどのミニライブ実施

⑦ 東日本大震災関連支援活動

(I) 東北地区支援隊による支援活動の展開

チーム、取引業者等の協力も受け Vリーグ機構事務局が支援隊(8人)を編成し、仙台市、気仙沼市、陸前高田市へ 4月8日～11日に派遣。地元小・中・高校及び避難所を中心として物資(生活用品、バレーボール用具、用品等)の提供と慰問、バレーボール教室等を開催

(II) 東日本大震災復興支援チャリティー大会の開催決定

2011V・サマーリーグ女子大会(1次リーグ、決勝リーグ)を復興支援チャリティー大会と位置付

け、各種チャリティーイベントや募金活動を行うとともに、大会収入の一部を復興支援活動に役立てることを決定。

⑧ その他

(I) テレビ放送については、大震災による大会の中止により放送回数が例年より下回りました。

入場者数を見ると、男子・女子大会合計で 249,067 人(対前年比 74,765 人減)、男子大会は 106,112 人(同 44,700 人減)、女子大会では 142,955 人(同 30,065 人減)となり大幅に減少しました。原因としては、大震災による大会の中止による試合数の減少(男子・女子大会合わせて、レギュラーラウンドで 24 試合、ファイナルラウンド 16 試合)に加え、不況によるチーム動員応援者の減少などが考えられます。観客数の増加策は今後の大きな課題となりました。

(2) V・チャレンジリーグ

男子 11 チーム、女子 12 チームとなった V・チャレンジリーグは、女子大会は 11 月 27 日、男子大会は 1 月 8 日に開幕しました。

このシーズンは、男子・女子大会とも 2 回戦総当たりリーグ戦とし、男子 110 試合、女子 132 試合の計画で進めてきましたが、東日本大震災の発生により 3 月 12 日以降開催予定の全試合を中止し、3 月 6 日迄の試合(男子 90 試合、女子 112 試合)をもってシーズンを終了、その時点での成績で順位を決定しました。

チャレンジリーグの競技力強化と大会の運営を、プレミアリーグに近づけ大会の質の向上と運営の改善、効率化を年々行なってきましたが、Vリーグ加入 5 年目のシーズンとなった今シーズンはさらにこれを推し進めました。

具体的には、公式プログラムのプレミアリーグとの合本を昨シーズンに引き続き実施したのに加えて、ホームタウンゲームの実施、派遣役員体制の整備などを行ないながらサイン入りミニボールの投げ込みやキッズエスコートなど、ファン対策・集客アップにつながるイベントの標準化も進めました。

入場者数は、男子・女子大会合計で 70,990 人(対前年比 16,318 人増)、男子大会は 21,240 人(同 1,023 人増)、女子大会は 49,750 人(同 15,295 人増)となりました。増加要因は、男子・女子大会とも昨シーズンの試合方式(1 回戦総当たりのレギュラーラウンドと上位リーグ(男女 6 チーム)と下位リーグ(男子 5・女子 6 チーム)に分かれての順位決定リーグ)を代え、2 回戦総当たりに変更したことにより、大震災による大会中止があったものの 試合数が 36 増加(男子 20、女子 16)したことによるものです。1 開催日当たりの入場者数で見ると女子大会は地道な告知活動、ホームタウンゲームの活性化等により増加しましたが男子大会は減少しました。男子大会の減少傾向に対してはいろいろな角度から要因の分析と対策の考察をする必要が生じました。

(3) バレーボール教室の開催等

このほかに、Vリーグ機構としては年間を通して、バレーボール教室の開催(チームによるバレーボール教室及び JVA 指導普及委員会の行なう「Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室」)や、2006 年度から始めた「ジュニア育成支援活動」など、ジュニアの育成、地域に密着した社会貢献型の活動にも引き続き力を入れてきました。

プレミア・チャレンジ両リーグのチームが主催したバレーボール教室は、全国各地で延べ 1012 日開催し(昨年度比 38%増)、小学生から家庭婦人まで 57,861 人の生徒(昨年度比 24%増)を迎え、盛況のうちに開催し好評を博しました。

(4) 国際交流

①2011日韓 V.LEAGUE TOP MATCH

5 回目を迎えた日韓 V. LEAGUE TOP MATCH を今シーズンは、昨シーズンの韓国・ソウルで開催した男女大会から始めた競技方式(日韓の Vリーグの 1 位チーム同士が、1 試合対戦して勝敗を決する方式)により、4 月 24 日に男女とも日本・埼玉県さいたま市記念総合体育館で行うべく開催準備をしてきましたが、東日本大震災の影響を受け韓国バレーボール聯盟と合意の上中止しました。

②アジアクラブ選手権への派遣

アジアバレーボール連盟が主催する本大会は、トップリーグの国際競技力の強化、アジア地域におけるスポーツ文化交流の面で重要な大会であることから、当機構は 2007 年以降毎年プレミアリーグ、レギュラーラウンド 1 位の男子・女子チームを派遣してきました。今年はインドネシア(男子)、ベトナム(女子)で開催することが決定していましたが、諸般の理由により当機構からの参加派遣は見送ることにしました。

(5) 助成金

当機構は、我が国における国際競技力の向上を期すための国の助成金制度「競技強化支援事業助成金(トップリーグ運営助成)」を制度開始の平成 15 年度から毎年交付を受けてきています。

平成 22 年度については、15.4 百万円の交付決定を受け、マネジメント機能強化、研修会やトップリーグ活性化の為諸施策を実施しました。事業規模は総額 41.3 百万円となり、当機構の運営、事業推進に大きな成果を出しました。

今後とも、制度の主旨に沿った有効な活用に心がけ競技力向上とリーグの活性化に努めていく所存です。

(6) 協賛について

今シーズンもプレミアリーグに対して、多くの企業から協賛をいただくことができました。

協賛いただきました各社と、お世話になりました株式会社電通並びに公益財団法人日本バレーボール協会のパートナーシップに厚くお礼申し上げます。

以上のような当機構の活動の成果を経営数値面で見ますと、東日本大震災による大会中止の影響を受け事業収益は総額 397 百万円(前期比 80 百万円減)、費用総額は 369 百万円(前期比 68 百万円減)、経常利益は 28 百万円(前期比 12 百万円減)、当期利益 8 百万円(前期比 15 百万円減)の減収減益となりました。

今後の見通しとしては、大震災並びにその後の放射能、電力不足問題や対外的には円高、米国、ユーロ諸国の経済不調の影響を受け、我が国の景気は早急に回復が見込めない様相であり、バレーボールを取り巻く環境も一段と厳しさが増すものと見込まれますが、当機構としてはリーグ運営並びに主催大会の一層の活性化のために、財政の安定、充実に向け引き続き効率的な経営に取り組んでいく所存です。

法人設立時に掲げた 5 つのビジョンの実現に向け、より活性化した組織運営と事業活動に継続して取り組むとともに、公益財団法人日本バレーボール協会をはじめ、都道府県バレーボール協会他関係諸団体との協力関係もより一層緊密化を図り、社員各位の期待に応えていく所存です。

2. 法人の概況

社 員 名	チ ャ ム 名	区 分	基 金 の 口 数	基 金 の 額 (円)
公益財団法人日本バレーボール協会			12	6,000,000
株式会社ウォーク	岡山シーガルズ	女子	1	500,000
サントリービジネスエキスパート株式会社	サントリーサンパーズ	男子	1	500,000
株式会社デンソー	デンソーエアリービーズ	女子	1	500,000
東北パイオニア株式会社	パイオニアレッドウィングス	女子	1	500,000
東レ株式会社	東レアローズ	男子	2	1,000,000
	東レアローズ	女子		
豊田合成株式会社	豊田合成トレフェルサ	男子	1	500,000
日本たばこ産業株式会社	J Tサンダーズ	男子	2	1,000,000
	J Tマーヴェラス	女子		
日本電気株式会社	N E Cレッドロケッツ	女子	1	500,000
久光製薬株式会社	久光製薬スプリングス	女子	1	500,000
日立オートモティブシステムズ株式会社	日立リヴァーレ	女子	1	500,000
株式会社ブレイザーズスポーツクラブ	堺ブレイザーズ	男子	1	500,000
パナソニック株式会社	パナソニックパンサーズ	男子	1	500,000
上尾中央医科グループ協議会	上尾メディックス	女子	1	500,000
株式会社大野石油店	大野石油広島オイラーズ	女子	1	500,000
近畿クラブ	近畿クラブスフィード	男子	1	500,000
株式会社栗山米菓	Befcoビービースターズ	女子	1	500,000
警視庁	警視庁フォートファイターズ	男子	1	500,000
社会福祉法人健祥会	健祥会レッドハーツ	女子	1	500,000
三洋電機株式会社	三洋電機レッドソア	女子	1	500,000
株式会社ジェイテクト	ジェイテクト S T I N G S	男子	1	500,000
医療法人青雲白鷺会三好内科・循環器科医院	大分三好ヴァイセアドラー	男子	1	500,000
大同特殊鋼株式会社	大同特殊鋼レッドスター	男子	1	500,000
一般社団法人つくばユナイテッドサンガイア	つくばユナイテッドSunGAIA	男子	1	500,000
医療法人社団天宣会	柏エンゼルクロス	女子	1	500,000
東京フットボールクラブ株式会社	F C 東京	男子	1	500,000
トヨタ自動車株式会社	トヨタ自動車サンホークス	男子	1	500,000
トヨタ車体株式会社	トヨタ車体クインシーズ	女子	1	500,000
東京ヴェルディ1969フットボールクラブ株式会社	東京ヴェルディ	男子	1	500,000
富士通株式会社	富士通カワサキレッドスピリッツ	男子	1	500,000
K U R O B E アクアフェアリーズ	K U R O B E アクアフェアリーズ	女子	1	500,000
株式会社 P F U	P F U ブルーキャッツ	女子	1	500,000
NPO法人阪神バレーボールコミュニティ	阪神デルフィーノ	男子	1	500,000
NPO法人エイティエイツバレーボールクラブ	四国Eighty8Queen	女子	1	500,000
株式会社きんでん	きんでんトリニティーブリッツ	男子	1	500,000
東京トヨペット株式会社	東京トヨペットグリーンスパークル	男子	1	500,000
株式会社熊本サービスセンター	フォレストリーヴズ熊本	女子	1	500,000
グリーン・サポート・システムズ株式会社	G S S サンビームズ	女子	1	500,000

社員名、チーム名は平成23年6月30日現在のもの

3. 運営体制の強化

(1) 概況

第4～5期役員(理事10名)は、平成22年9月に任期満了となり、新たに10名の理事が第6～7期理事として選出されました。

監事は改選時期ではありませんでしたが、1名が辞任により残り任期を務める監事1名が選出されました。

また、理事の互選により、理事の中から木村憲治が、代表理事に選出されました。

(2) 役員一覧

平成23年6月30日現在

代表理事・会長	木村 憲治 きむら けんじ	昭和20年(1945年)7月19日生まれ 第5期監事、元松下電器(株)特品マーケティング本部長 JVA一貫指導委員会副委員長
理事・副会長	井原 実 いはら みのる	昭和22年(1947年)1月28日生まれ 第4期～第5期理事、井原実公認会計士事務所
理事	間野 義之 まの よしゆき	昭和38年(1963年)12月2日生まれ 第2期～第5期理事、早稲田大学スポーツ科学学術院教授
理事	三好 徹 みよし とおる	昭和22年(1947年)4月15日 第2期～第5期理事、三好総合法律事務所
理事	梅北 精幸 うめきた せいこう	昭和34年(1959年)8月25日生まれ 第4期～第5期理事、Vリーグ機構事務局長
理事	小田 勝美 おだ かつみ	昭和27年(1952年)5月6日生まれ (株)プレイヤーズスポーツクラブ専務取締役 堺プレイヤーズバレーボール部長
理事	鬼丸 重光 おにまる しげみつ	昭和24年(1949年)2月6日生まれ 元(株)デンソー安城製作所所長 デンソーエアリービーズバレーボール部長
理事	窪田 隆一 くぼた りゅういち	昭和38年(1963年)4月29日生まれ 富士通(株)沼津工場総務部長 富士通カワサキレッドスピリッツバレーボール部長
理事	斎藤 聖二 さいとう せいじ	昭和33年(1958年)6月19日生まれ JVA国内事業部事業部長
理事	林 孝彦 はやし たかひこ	昭和34年(1959年)8月1日生まれ NECレッドロケッツバレーボール部副部長
監事	滝本 規明 たきもと のりあき	昭和18年(1943年)12月4日生まれ 第5期監事、元・サントリー(株)取締役、監査役
監事	早野 容司 はやの ようじ	昭和35年(1960年)3月3日生まれ (株)ジェイテクト海外営業部部長 ジェイテクトSTINGSバレーボール部副部長